

科目名	健康生活看護学(小児概論)			ナンバリング	PEN431	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	前期前半	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	レンデンマン美智子	担当教員					

授業の概要	昨今の社会環境の変化は、子どもとその家族にも大きな影響を与えている。ここでは、子ども観の変遷、子どもが育つ環境の意味、子どもの権利からみた子どもの健康・社会状況の変化を学ぶことを通して、子どもの健全な成長発達と健康増進のための小児看護の役割・機能について学修する。また、小児保健の動向や子育て支援などに関する社会制度について学ぶとともに、子どもと家族を支えるための小児看護の役割についても学修する。						
到達目標	1. 子どもの身体的成長発達について説明することができる。 2. 子どもを取り巻く社会環境(法律など)について説明することができる。 3. 子どもと家族に対する健康増進に向けた政策について説明することができる。 4. 子どもを取り巻く家族や社会の役割機能を説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	事前に生涯発達看護学(小児)の復習をしておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
		5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 子どもの成長発達について説明することができる 2. 子どもを取り巻く家族・社会の役割機能について説明することができる 3. 子どもと家族を取り巻く社会環境(法律、政策など)を説明することができる	1. 子どもの成長発達を統合的にとらえ説明することができる 2. 小児看護を実践するため、子どもと家族を取り巻く社会がどのように変遷し、それに対して法律、政策などがどのように行われているのかを説明することができる

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○	○			70%
小テスト・授業内レポート	○	○					30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス、小児看護の対象の理解、小児看護の役割	小児とは、小児看護の目標、小児看護の変遷、小児の人権、ヘルスプロモーション	
	第2回	小児保健動向	児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、児童憲章	
	第3回	小児と環境	家族の役割機能、家族アセスメント、予防接種	
	第4回	保健統計からみた小児の健康問題-1	出生、死亡率、セーフティープロモーション、肥満、いじめ、不登校	
	第5回	保健統計からみた小児の健康問題-2	虐待	
	第6回	成長発達(新生児、乳児)	成長発達のアセスメントー体重、身長、頭囲、バイタルサイン栄養、排泄、睡眠。	
	第7回	成長発達(幼児)	成長発達のアセスメントー体重、身長、頭囲、バイタルサイン栄養、排泄、睡眠。	
	第8回	成長発達(学童期、思春期)	成長発達のアセスメントー体重、身長、頭囲の変化。バイタルサインの正常値。栄養。排泄。第二性徴	
	第9回	テスト	学修した内容の到達度テスト	
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験	全講義終了後に試験を実施する。		
授業の進め方		講義により授業を進める。		
授業外学習の指示		教科書・配布資料を参考に予習・復習をすること。 不明な点は教科書・配布資料で確認をするか教員に質問をすること。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	ナーシング・グラフィカ看護 小児の発達と看護 MC メディカ 出版
参考書	小児看護学概論 医学書院、小児看護学概論 南江堂、小児看護学概論 メチカルフレンド社
参考URLなど	
その他	